

2018

8-9月

はしかけニューズレター

2018年度 第3号 通巻142号

2018年(平成30年)8月1日発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 下松・八尋・大塚・大槻・楊)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <http://www.biwahaku.jp>

(注意) 昨年末よりメール アドレス および HP アドレスが変更になっています。

～ 目次 ～

1. 新担当からのご挨拶

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
- (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
- (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) 湖(こ)をつなぐ会 (10) ザ! ディスカバりはしかけ
- (11) 里山の会 (12) 植物観察の会 (13) たんさいぼうの会 (14) 田んぼの生き物調査グループ
- (15) タンポポ調査はしかけ (16) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
- (18) びわたん (19) ほねほねくらぶ (20) 緑のくすり箱 (21) 虫架け (22) 森人 (23) 琵琶湖梁山泊
- (24) サロン de 湖流

3. 生活実験工房からのお知らせ

4. その他の事項

会員数 ...351人

グループ数 24 グループ

(2018年8月1日現在)

1. 第2期リニューアルオープンとなりました。

「おとなのディスカバリー」と「ディスカバリールーム」は、7月4日に内覧会を実施、国・県会議員、企業サポーター、はしかけ・フィールドレポーターの皆様等、580名の方にお越しいただいてお披露目となり、7月6日に無事リニューアルオープンしました。21日には企画展「化石林 ねむる太古の森」もオープンとなり、休日を中心に非常ににぎわっています。はしかけ会員の皆様も、多くの方がご来館いただいたのではないかと思います。

私も先日、おとなのディスカバリー内の質問コーナーで対応しましたが、調べるコーナーでスケッチをしたり、標本を顕微鏡で熱心に見ている方がたくさんおられました。質問コーナーの机には、雌雄両方の特徴を持つ珍しいカブトムシとアルビノの黄色いオタマジャクシも同時に展示し、「ネットで話題になっている」と多くの方が見学にこられました。

今後は、はしかけ会員の皆様には、オープンラボの活用も図っていただきたいと思います。博物館内でグループのミーティングがある際には、担当学芸員とともにオープンラボ内を見学いただき、活用方法を検討していただくようお願いいたします。

(下松 孝秀)



おとなのディスカバリーの様子



ディスカバリールームの様子

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 63名】

グループ代表アドレス：hashi-uonokai@biwahaku.jp

グループ担当職員：松田征也

【活動報告】

■ 4月21日(日) 第133回定例調査 場所：和邇川 雨天により中止

■ 5月20日(日) 第134回定例調査 場所：安曇川南流～荻の浜までの小河川 参加者23名

4月の調査が荒天中止となり、今年度初回の定例調査となった第134回調査は、過ごしやすい気温の中、安曇川南流～荻の浜までの小河川で、5班に分かれて行われました。

出現した魚種はスナヤツメ、アユ、コイ、ギンブナ、オイカワ、カワムツ、ヌマムツ、タカハヤ、アブラハヤ、モツゴ、ビワヒガイ、ホンモロコ、ニゴイ、ゼゼラ、ドジョウ、シマドジョウ類、ナマズ、ミナミメダカ、ウツセミカジカ、ドンコ、ウキゴリ、ヨシノボリ類、ヌマチチブ・・・などなど。目視で確認された数種を含めると、全26種の魚類が出現しました。多くの魚類の産卵期・生育期ということで、コイ科の稚仔魚やナマズの卵なども見られました。

調査地が琵琶湖に近いこと、水田や河川、小水路といった様々な環境で調査したことから、多くの魚種を採集できたのでしょう。一度の調査でこれほど多くの魚種を見ることができるのは珍しく、初参加の方も含め、春のお魚取りを楽しみました。終了後も、桑の実班、タナゴ釣り班、サワガニ班などに分かれて追加調査が行われていたようです。自然の恵みに感謝！

今回の定例調査は湖北の塩津大川周辺。こちらも多く魚種の出現が予想され、楽しみです。(報告 酒井陽一郎)

■ 6月17日(日) 第135回定例調査 場所：塩津大川など 参加者18名

滋賀県北部塩津エリア、大川、岩熊川、大坪川を中心に参加者17名が4班に分かれ、梅雨の合間の晴天の中、前回同様に琵琶湖湖岸から田園地帯、山間部まで広い範囲で調査が行われました。

確認された魚種は、アブラハヤ、タカハヤ、トウヨシノボリ、ビワヨシノボリ、ドジョウ、シマドジョウ類、カワムツ、ヌマムツ、オイカワ、ドンコ、ウキゴリ、ヌマチチブ、カジカ、ウツセミカジカ、ゼゼラ、ハス、アユ、ナマズ、ニゴイ、ビワヒガイ、アマゴ(稚魚、ビワマスかも?)、ワカサギ、ギンブナ、スナヤツメに、タナゴ類の稚魚、フナ類の稚魚、ナマズの稚魚など、前回同様多くの稚魚も確認されました。

魚以外にはトノサマガエル、ダルマガエル、シュレーゲルアオガエル、サワガニ、ザリガニ、コオイムシ、ナベブタムシ、スジエビ、ヌマエビ、ゲンゴロウの仲間、数種のトンボのヤゴなどが確認されました。次月は定例調査のほか、えり漁体験があります。多くの参加を期待します。(報告 田中治男)

■ 7月15日(日) 第136回定例調査 場所：野洲川周辺の支流、水路など 参加者22名

野洲川支流周辺で調査が行われました。気温がとても高く、熱中症に気をつけながらの調査となりました。

確認魚種はアユ、カワムツ、ヌマムツ、オイカワ、カマツカ、タモロコ、ムギツク、ニゴイ、ギンブナ、コイ(目視)、アブラボテ、モツゴ、ミナミメダカ、ドジョウ、ギギ、ヨシノボリ類、ウキゴリ、ドンコ、ブルーギル、オオクチバスでした。在来種だけで20種類近く確認され、この地域の魚類相の豊かさを示す結果となりました。

魚の他にはマシジミ(今や貴重です)、カワニナ、スジエビ、ヌマエビ類、アメリカザリガニ、数種のヤゴ、サワガニ、ウシガエル幼生などが確認されていました。(報告 市原 龍)



7月調査定例調査の様子



アブラボテ(7月調査)



マシジミ (7月調査)



マルタニシ (7月調査)

【活動予定】

- 8月は、定例調査はお休みです。
 - 9月16日(日) 第137回定例調査 旧近江町周辺小河川
 - 10月21日(日) 第138回定例調査 宇曾川～愛知川間の小河川
- 年間活動予定はうおの会のウェブサイトに掲載されています。ご覧ください。



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ代表アドレス: hashi-junrei-rekishi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 橋本道範、渡部圭一

【活動報告】

■ 7月2日(月) 場所: 長浜市竹生島 参加者: 2名

長浜市竹生島の宝厳寺(西国三十三所観音霊場の第三十番札所)

全国に600以上あると言われている札所巡りの中で最も歴史が古く、観音巡礼の根源が西国三十三所である。関西2府5県、全行程は約930kmにおよんでいる。

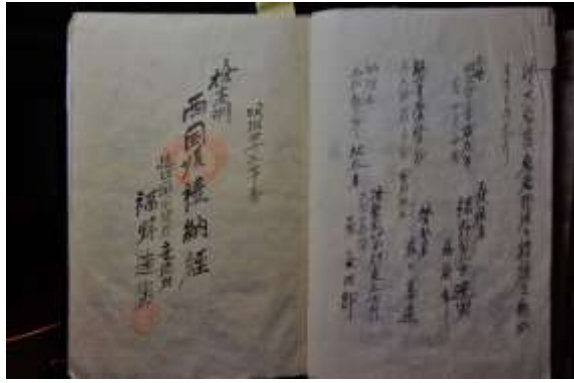
今回、甲賀市内の竹生島ツアーに参加する機会に恵まれたため総勢29名で宝厳寺に参詣した。宗派は真言宗豊山派、本尊は大弁才天・千手千眼観世音菩薩。縁起によれば、創建は神亀元年(724年)。聖武天皇は行基を島に遣わし弁才天を祀る堂を建てさせて、翌年には観音堂を建立し千手観音像を安置した。天皇もしばしば行幸し、最澄や空海も来島したとされる。織田信長や豊臣秀吉の参詣も有名である。最澄は長講仁王経、金光明経に飯道、竹生淡海神と記している(伝教大師全集)。飯道神と竹生神が淡海で最も古い神であったことがうかがえる



今回は明治43年に巡拝した納経帳を持参して108年の時を超えて同じ納経帳に朱印を受けた。今年は西国札所草創1300年に当たる年でもあり札所の記帳者の方々にも深く興味を持っていただいた。



明治43年の納経帳



拾老州西国巡礼納経



明治43年に記帳された朱印



新たに記帳された平成30年の朱印

現在は竹生島へ大型のクルーザーで短時間で参拝が可能であるが当時は手漕ぎの船で渡ったということや、第32番札所の観音正寺の印が朱印ではなく黒印になっていることなども新しい発見であった。

【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動として、一カ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・「甲賀准四国八十八カ所」関係者や巡礼に関する専門家との第二回目勉強会を開催に向けた準備を進める。

(福野憲二)

*この活動に興味のある方は、上記メールアドレスにてご連絡ください。



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ代表アドレス: hashi-sketch@biwahaku.jp

グループ担当職員: 篠原徹, 榎永一宏

【活動報告】

■ 5月27日(日) スケッチおよび吟行 場所: 生水の郷(針江) 参加者: 6名

スケッチを楽しんだり、梅花藻が咲き始めている清流に魚の姿を発見したり、充実した時間を過ごしました。

■ 6月24日(日) スケッチおよび吟行 場所: 芦刈園(守山) 参加者: 5名

白や水色、紫、ピンクなど、さまざまな色の紫陽花を散策しながら見て歩いたのち、スケッチや俳句を楽しみました。

※2018年7月22日(日)の活動につきましては、次回ご報告の予定です。

【活動予定】

■ 8月26日(日)

琵琶湖博物館(草津)にてスケッチ、および吟行。

■ 9月23日(日)

平湖(草津)にてスケッチ、および吟行。

※集合場所と時間については後日連絡させていただきます。

※初めて参加される方は080-5709-8634(金山)までご連絡ください



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ代表アドレス: hashi-oumihataori@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】

織姫の会

■ 5月26日(土) 参加者: 2名

整経に向けて、糸巻などの準備。

■ 6月6日(水) 参加者: 4名

本日は整経作業。午前中、ひと模様作ったところで間違いが判明。最初からやりなおしました。また、途中で紺色の糸がなくなったので、他の糸で代用。

■ 6月30日(土) 参加者: 4名

前回整経した糸をオサ通ししました。ちゃんとアゼをとったはずが、数えアヤしか残ってなかったため、アヤを一つずつ確認しながらオサ通しを行いました。その後チキリ巻き。あと少しのところまでタイムアップ。次回に持ち越しとなりました。

■ 7月11日(水) 参加者: 2名

前回途中だった経糸巻きを最後まで行いました。次は綜統ですが、まだ前の糸が地機にかかっているため、先にそちらを織りきってしまうことにしました。



6月30日チキリ巻き

【活動予定】

■ 織姫の会

7月28日(土)、9月15日(土)、26日(水)、10月10日(水)、27日(土)、11月17日(土)、28日(水)
(8月はお休みです)

(辻川智代)



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 31名】

グループ代表アドレス: hashi-ganseki@biwahaku.jp

グループ担当職員: 里口保文

【活動報告】

■ 5月27日(日) 10:00-15:30 吾妻川周辺 野外調査 参加者: 11名

大津市の吾妻川を大津駅から木下谷を経由し調査。引き続き、尾根筋の高圧線のから膳所・鶴の里経由、膳所駅に降りるルート沿いの断層等の調査。

①調査結果のポイント

- A. 吾妻川の川底には擦痕を伴う長いクラックがある。衝上断層か?
- B. 吾妻川を横断する連続するガウジと隣接した石墨の存在。ずれ幅とずれ方向の明瞭な断層。断層帯が連続的なものとするれば破碎帯の幅は40mになる。
- C. 尾根筋を越えた鶴の里団地の西方にクラック。走向は上記B項の断層帯と同一。
- D. この調査域には石英脈が多いとの指摘。
- E. 石英脈は地下の花崗岩と繋がっているとの見解あり。

■ 6月16日(土) 10:00-15:00 金勝山付近 野外調査 参加者: 9名

金勝山・水晶谷の古い坑道跡を含む周辺地域における観察(案内者は、山野井と齋藤知)。無理をしないことと安全性の確認を重視して行った。

①調査結果のポイント

- A. 水晶谷: 少なくとも大量の石英片は散在している。
- B. 鉦山跡・洞窟: 予想以上に深い。火成岩が瀆記列した構造や、断層と思われる場所もあった。岩石も風化が少ない物も見えた。地中で形成された火成岩の成因を知るうえで貴重な場所と思われる天井からかなりの水滴の落下あり。水滴の落下は坑道の劣化に繋がる可能性もある。安易な調査はしないほうが良い。くれぐれも注意のこと。



C. 捕獲岩?: 皆さん、叩いたり、割ったり、割れた石を探したり、色んな角度から岩の調査をした。結論的。ホルンフェルス化した砂岩とのこと。ここで中野さんから資料を頂き、このあたりの岩についての講義。講義のあと、集合写真を撮った。

■ 7月16日(月) 10:00-15:30 琵琶湖博物館 参加者: 11名

午前の部と午後の部に分け、実施。

①午前の部

- ・リニューアルされた琵琶湖博物館案内(里口)

リニューアルの概要説明と案内をして頂いた。岩石調査に関しては特に顕微鏡関係が充実し、ややこしい岩石の調査に特に有効であると思った。滋賀県の石に関する試料用の箱の説明もあり。資料の充実に協力したい。

- ・相模川源流域の最近の調査結果報告: 「広い破砕帯の確認、貫入岩脈の地中末端の一形態」(梅澤)

相模川には100mを超す破砕帯があること、また断層に沿って凹地があり、それが川から尾根に向かって伸びている報告、地中で5000-7000万年前に固化した火成岩の露頭の発見とその末端と思われる場所の特異な劣化についての報告があった。

- C. 講演: 「田上山の話題: 珪石鉱床・長石鉱床・ペグマタイト鉱床」(中野)

前月に行った金勝山の鉱床のお話から始まり、日本の代表的な金鉱床の成因、田上山のペグマタイトも含め、鉱床成因のお話があった。硬く耐熱性の高い鉱物が整然と配列したり、大きな結晶や大きなブロックを作るとは実に不思議なことである。高温の熱水的作用でうまく説明できるとのこと。

②午後の部

薄片試作の実習の継続と顕微鏡観察を中野さんの指導で実施した。中野さんの指導で、かなりレベルは上がった。新入者も増加したので、次回は岩石カットから再度実施する。

【活動予定】

■ 8月22日(水) 琵琶湖博物館での勉強会 薄片試作とその評価、新観察機器活用して岩石の勉強会

温故写新 (6) 温故写新 【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ代表アドレス: hashi-onkosyasin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 金尾滋史

【活動報告】

■ 6月24日(日) 9:30~12:00 おでかけ撮影会 場所: 守山・芦刈園 参加者: 8名

守山市内のアジサイの名所、芦刈園でさまざまなアジサイやそこにあつまる生き物、そして水辺の風景を撮影しました。たくさんのお花が咲いており、この季節の風景を楽しみながら撮影できました。

【活動予定】

■ 7月28日(土) 9:00~16:00 おでかけ撮影会 場所: 伊吹山

守山滋賀県の最高峰、そして様々な植物が観察できる伊吹山へ温故写新が初チャレンジします!! 滋賀県を代表する自然の風景やそこに生きる生き物たちを撮影します。

人数把握と詳細連絡のため、参加される方は、必ず

金尾学芸員 (kanao-shigefumi@biwahaku.jp) までご連絡ください。



(7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 名】

グループ代表アドレス: hashi-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15 名】

グループ代表アドレス: hashi-hakutsu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山川千代美

【活動報告】

■ 6月1日(金) 13:00~ 6月3日の活動にむけての準備 場所: 琵琶湖博物館 地学研究室 参加者: 4名

活動内容: 6月3日の活動にむけて、土の計量や、土サンプルの採取、土の水つけ、千枚通しやシャーレ、保存用シール容器などの道具の準備などを行いました。

■ 6月3日(日) 13:30~16:00 多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業 場所: 琵琶湖博物館 実習室2

参加者: 11名

活動内容: 6月1日に準備しておいた試料の小割り作業を行いました。前回までの活動で、微小な化石をできるだけ壊さずに採取するため、いろいろな方法を試してきましたが、小割り後の水洗作業は行わず、土をできるだけ小さく小割りし、目視で微小な化石を探す方法を選択することにしました。

採取した土からは小さな植物片の化石などは見つかるのですが、なかなか同定可能な化石を見つけることができませんでした。それでも、今までの活動で手順が慣れてきたメンバー達は、持ち前の集中力を発揮し、千枚通しを使って、土を自分達が小割りできる限界まで小割りし、実体顕微鏡で丁寧に土を確認しながら忍耐強く作業を進めました。

今回の活動では、キクロカリアなどの植物化石や、昆虫化石などを採取しました。

【活動予定】

■ 7月14日(土) 13:30~16:00 多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業



(9) 湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ代表アドレス: hashi-ko-tunagu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林竜馬

【活動報告】

■ 6月30日は土曜日を活動日にしたため、来館者の状況が少し気になっていましたが、2回の紙芝居上演ともたくさんのお子もたちが集まってくれました。今回はいつもの「びわこの旅」にあわせて、新しく参加したメンバーが「かやねずみのおかあさん」という琵琶湖博物館にいる生き物のお話の紙芝居を紹介してくれました。本当に展示している「かやねずみ」のお話とあって子どもたちも興味深そうに聞いてくれました。今後も、楽しいお話を子どもたちに伝えていきたいと思います。

【活動予定】

■ 8月25日(土) 13:00~ 交流室2集合 紙芝居上演



(10) ザ！ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@biwahaku.jp

グループ担当職員: 中村久美子、妹尾裕介

虹色傘づくりでは、梅雨にピッタリのしとしと雨の日に、たくさんのかたが参加してくれました。みんな素敵な傘ができました。そしてついに！ディスカバリールームがリニューアルオープンしています！ザリガニは健在ですが、新しい仲間たちも増えました。夏休み、ぜひ遊びに来てください！！

どこにいるか、
みつけてね。



【活動報告】

活動内容	実施日	タイトル	内容
はしかけ イベント	6月23日(土) ①13:30-、②14:30-	虹色傘づくり	折り紙でカラフルなミニチュアの傘を作りました。雨でもたくさんの方が参加してくれました。はしかけ3名、参加者 17名+保護者

～メンバーからのメッセージ～Vol. 44

皆さん、ありがとうございました。

小さいお子さんも参加して下さいましたし、小学高学年くらいのお子さんも参加して下さいました。子供達が、選んだ折り紙が個性が出て面白かったです。

おばあちゃんにも教えてあげたいと言った感想を書itekudassatta方もいらっしやって嬉しかったです。またお家でも作って見ていただきたいです。

吉野

【今後の活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
準備	9—10月未定	タネ飛ばしの準備	10月実施予定のイベント準備

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に中村またはディスカバスタッフまで声をかけてください。いつでもお待ちしております！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましよう！



【活動報告】

■ 6月15日(金) 潮干狩り 参加者: 6名

大潮の潮時をねらって6月15日(金)に恒例の潮干狩りを行いました。当日は朝から雨模様でしたが、だめならお茶を飲んで帰ろうということで、ともかく集まった6人で津の御殿場浜目がけました。

現地に着くと天気は何とか持ちそうで、昼食もそこそこに干潟に向かいました。人出はさすがに少なかったですが、すでに先行者が入っていました。ねらい目はハマグリとマテガイですが、いずれも今年は豊漁でした。特にハマグリは割と大き目のものがありました。砂地のためかアサリは少ないようでした。また、ハマグリはアサリよりも少し深いところにいるようです。梅雨の合間をうまくつかめて参加者一同満足できた一日でした。 宮本



■ 7月7日(土) 里山体験教室 下見 中止

記録的豪雨の日でした。前日から雨が降りきましたので、中止としました。野外の企画では安全対策として下見は必須と言う事で、開催日前日の7月15日に博物館職員1名が下見を実施しました。体験教室の打合せは、メールと当日の朝実施しました。

■ 7月16日(月祝) 里山体験教室 本番 参加者: 53名



“記録的” 猛暑日の開催となりました。熱中症予防を一番に考えて無理のないプログラムを進めるよう注意を払いました。一般参加者14組39名はしかけ会員12名博物館職員2名合計53名の参加となりました。暑い中たくさんのご参加有難うございました。

まずは、里山の植栽地で草原の生き物探しです。八尋学芸員から虫網の上手な使い方を習い、さっそく虫網を振りながら草原へ。トンボ、バッタ、蝶々、カエル、カナヘビなどいろいろ見つかりました。暑さがつらくなる前に森林の昆虫観察に移ります。スギ林の中は、風もとおって日陰で涼しい! スギ林とはしかけの森に仕掛けて



おいた昆虫トラップを宝探しのように探した後は、いったん休憩ティータイム! 里山の野草で作った、野草茶と梅と柚子のジュースで休憩しました。さて、それでは森の昆虫観察会! 捕まった虫たちは、森の掃除屋さん。オサムシ、ゴミ虫、ダンゴ虫。見た目は地味だけど、よく見るととっても面白い昆虫たち。子ども達から八尋学芸員にたくさん質問が出て楽しい観察会でした。

昼食の後は、ハンモック体験会! 夏休みを前に、ぜひハンモックの作り方を覚えてキャンプなどで楽しんでほしいという思いで実施しました。これまた大好評♪あまりの気持ちよさにハンモックをしまうのに子ども達の大抵抗にあうほどでした(^^)



今回、参加者に「昆虫嫌い」さんが4人もいてビックリ。今まで嫌いだった昆虫をみんなにつられて捕ってみたら、とっても楽しかったって泣いていた子が笑って喜んでくれたのがとっても嬉しかったです。共に生きる生き物に親しみを感じてもらうための活動、実際の生き物や自然に親しむための外の活動の大切さを感じました。 山本



【活動予定】

- 8月19日(日) そうめん流し・ハンモック虫干し
- 9月中旬 他の里山訪問
- 10月6日(土) 里山体験教室下見
- 10月14日(日) 里山体験教室本番



クマノミズキ、アオギリ、リョウブが満開となり、セミの鳴き声と共に夏の本格的な暑さを感じます。

【活動報告】

■ 5月20日(日)「みずの森」へお出かけ観察会 参加者: 9名+講師の方々

入るやいなや、カタカナの横文字ばかりで全く覚えられず、各植物の綺麗さに感激しながらも、心の中では「採って分解したい、どんなつくりなんだあ?」「何の仲間?」「分解したい…」と、ずうーっと思っていたのは、私だけかもしれません。スイレンの仲間、ヤマボウシ、ウマノズグサが満開だったことと、温室でカカオの実など珍しいものも沢山見られた1日でした。

■ 6月3日(日)「カエデをみよう」持ち寄ったカエデを中心に観察 参加者: 10名

4月にカエデの花を2種みたことで、カエデの花・葉の鋸歯や形状・実を季節ごとにみてみようということになり、今年度2回目のカエデ観察でした。ウリカエデは葉の形状が樹によってかなり違ってくること(同じ樹でも若い枝とそうでない枝で違いは無さそう)、イタヤカエデは鋸歯がないことで簡単に見分けられること(同じ樹でも若い枝とそうでない枝でかなり大きさの違いがある)、ウリハダカエデは葉の形・鋸歯や樹皮の色で見分けられる、チドリノキは実が無いと分からない(葉だけではクマシデなどとの区別が難しい)など、別々の図鑑と照らし合わせながら観察しました。実物と数種類の図鑑を使うことで「この部分分からない」というのも出てきました。終了後、メンバーの中でも「余計に分からなくなったあ」とため息がもれていました。イロハカエデとヤマモミジ、ハウチワカエデとコハウチワカエデは、これからの課題です。



ウリカエデ ↑

■ 7月1日(日)「持ち寄ったものをみよう」 参加者: 8名

メンバーそれぞれが持ち寄ったものをみんなで調べて観察。数日前にメーリングリストで「教えてください」とお願いしたカワラハシノキ、イヌエンジュの実物を採って来てくださった方があり、皆さんとこうして居られるありがたさを再認識しました。その他、ハシノキ、ネジバナ、シロツメグサ等を観て、博物館周辺で採ったシマズメノヒエ・タチズメノヒエ・アメリカズメノヒエ(3種とも外来種)の花や葉のつくりを観察。そして、気づかないうちに、あちこちへ広がってしまっている帰化植物のことも覚えておきたいと思いました。



タチズメノヒエの雄しべ(黄と薄茶)、雌しべ(黒っぽいブラシ状) ↑

【活動予定】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。遠出の場合は、これに限らず、変則的になります。外部で行う観察会は、年に数回、みなさんにも呼びかけを行う予定です。このニューズレターを見て、直接現地へお越しください。基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行く」方向でいます。
- 8月 5日(日) 「湖岸の水草を拾って調べよう」(無ければカエデをみる予定)
場所: 琵琶湖博物館 実習室1または2
時間: 13:30~16:00
- 9月 2日、または9日か16日(日) (8月に相談後、日程と行程を決めます)
「水草を見に行こう」 講師: 芦谷さん
場所: 近江八幡方面か、能登川方面

この活動に興味のある方は、メール(上記メールアドレス)にてご連絡ください(〇〇)/当日、直接、実習室へ来ていただいても結構です。



(13) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 19名】

グループ代表アドレス: hashi-keisou@biwahaku.jp

グループ担当職員 影の会長: 大塚泰介

【活動報告】

たんさいぼうの会第57回総会を、7月22日(日)13時30分から、琵琶湖博物館研究交流室で開催しました。まず、規約の改正案が検討され、会に副会長を常に置くことが正式に決定されました。また会費については年会費をとらず、必要に応じて総会の決定により徴収することができることになりました。次に、今年度の「たんさいぼうの小さな旅」の計画が検討され、箱館山の平池に9月下旬から10月上旬のどこかで行くことになりました。続いて過去に採集してきた試料の研究・利用状況が検討され、まだ研究された資料が半分にも満たないことが明らかにされました。あれだけ論文を書いているのに、まだ半分も片付いていなかったのですね。そこで未研究資料の情報を整理して共有し、現会員の次の課題にしたり、新入会員などに研究を勧めたりして研究を進めることにしました。その後は、個人研究の進捗状況を報告し、今後の活動についてざっくばらんに議論をして、16時頃に終了しました。

古海水準復元の際に有力な証拠となる *Pseudopodosira kosugii* を含む久美浜の化石珪藻については、既に影の会長が中心となって論文を投稿し、現在、査読修正中です。多賀町四手の蒲生層(前期更新統)の化石珪藻に関する、光学顕微鏡と電子顕微鏡を併用した詳細な分類学的な報告は、原稿が一通り完成しました。現在、最後の手直しをしているところです。このニューズレターが出る頃までには投稿する予定です。藤前干潟(名古屋市)の珪藻については、核をヘマトキシリン染色した試料の観察と、その方法では検出できない砂粒に固着した珪藻の常法による観察を併用して、干潟で実際に生活していた珪藻の全体像を把握しようとする(おそらく世界初の)チャレンジを行っています。著しい種数の多さ、そしてあまり知られていない種(おそらく新種を含む)の多さに苦しみながらも、もうすぐ一通りの同定を終えます。他にも藤ヶ鳴湿原(岡山市)、瀬田公園(大津市)、愛知県の高質土壌湿地群などの珪藻の研究を進めています。

【活動予定】

上記の、会員の研究成果を論文として出版すべく、暑い中でも無理のない範囲で研究を進めていきます。

箱館山 平池への「たんさいぼうの小さな旅」に行ってきます。日程を、9月24日(月祝)、10月1日(月)、8日(月祝)の3日間のどれかで調整中です。

たんさいぼうの会第58回総会を、2019年1月に開催します。1月14日(月祝)午後を軸に調整中です。

いずれも、参加ご希望の方は上記代表アドレスまでご一報ください。



(14) 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 44名】

グループ代表アドレス: hashi-tambo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 鈴木隆仁

地震の後の大雨、そして猛暑。年々激しさを増す気象現象は、やはり我々人間の活動の影響でしょうか? 大雨で水に浸かった田んぼでは、もうコメを収穫できないかもしれません。水だけではなく、泥やごみによる被害もあります。田んぼを調査して回った者として、災害にあった田んぼを見るのはつらいものです。できるだけ早く復興するように願うばかりです。

【活動報告】

■ 2018年度調査

つぎのような日程で合同調査を実施しました。

- 5/22 近江八幡市安土町中屋
- 5/23 大津市の湖西線沿線(近江舞子から大津京)
- 5/26 甲賀市甲賀町高野, 土山町市場
- 5/26 高島市今津町下弘部, 朽木野尻
- 5/29 近江八幡市安土町常楽寺
- 6/ 2 米原市世継, 豊郷町吉田
- 6/ 3 竜王町鶴川, 東近江市上平木町
- 6/ 4 長浜市大井町, 米原市村居田
- 6/10 大津市大江四・五丁目

6/13 長浜市木之本町黒田、高月町馬上

ほかに、長浜市湖北町山本、東近江市福堂町・下麻生町・市原野町、守山市木浜町、大津市八屋戸などで、個人調査を実施しました（担当者：岡田、前田、山川）

■ 7月10日（火）10：00～17：00 プレ同定会 場所：実習室1 参加者：5名

台湾より出張で来日されたグライガーさんに、カブトエビ類の同定をお願いしました。6/10 に予定していた大津市の瀬田・石山寺地域をまわる合同調査は天候不良で中止しましたが、山川代表が独りでコツコツと回って採集したカブトエビ類のサンプルが70本余り！ とても我々だけでは手に負えそうもなかったのも、タイミングよく来日されたグライガーさんに手助けを求めました。ほかのメンバーは、同定済みサンプルの整理や、自分の調査データの整理を行いました。

【活動予定】

■ 7月22日（日）10：30～ エビ類の同定会 場所：実習室2

今年採集したサンプルの同定と保存、調査票の整理を行います。

調査に参加した人は調査票、サンプルを持参してください。

やむをえず欠席される場合は、事前に山川代表までお手持ちのサンプルと調査票、GPSデータの提出をお願いします。

（石井千津）



(15) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 名】

グループ代表アドレス: hashi-tanpopo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

<お詫び>

ニューズレターの前号まで、代表アドレスが古いままになっていました。大変申し訳ありません。

<2020年の調査が迫ってきました！>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的に作ったグループです。この「タンポポ調査・西日本」は、5年ごとに開催される広域の参加型調査で、2020年も実施される予定です。2019年が予備調査、2020年が本調査です。

先日、調査事務局より、調査に向けてのアンケートが送られてきました。琵琶湖博物館は、前回と同じように調査票とサンプルの送付先になります。

<引き続きメンバー募集中！>

今回の調査に向けて、そろそろ準備したいと考えています。開花期間が短いので、1年の活動は4カ月ほどになるかもしれませんが、興味のある方の参加を引き続きお待ちしております！

メーリングリストを、現在移行中です。メーリングリストに登録を希望される方は、上記アドレスまで連絡をください。こちらから改めて連絡をとらせていただきます。

<2015年の調査の結果を掲載したチラシ、報告書をご希望の方はお知らせください！>

「タンポポ調査・西日本2015」の報告書および結果チラシをご希望の方は、上記アドレスあるいは芦谷まで直接お尋ねください。チラシを配布したいなどのご希望も、遠慮なくお知らせください。

【活動報告】

この2ヶ月は、特に活動はありませんでした。

【活動予定】

現時点で決まっている活動予定はありません。



大雨の6月、酷暑の7月の活動の様子を報告します!

◆ 6月

前日から降り続き、当日も大雨の梅雨のちこあそで、参加される方はおられるかなあと少し不安になっていましたが、2組の方が参加してくださりました。上下きっちりとカップを来て、雨に備えて来てくださりました。芝生広場の森の隅には、5月には見られなかった朱色の実が木になっていました。バンダナおじさんに「それはコウゾの実だよ」と教えていただき、口にほおぼると、ねっとりとした甘い味が。しっかりと熟していたので、野性味あふれる甘さが堪能できました。たくさん集めて煮詰めると、なんとコウゾの飴が出来上がりました。お昼には、お野菜の炒めもの、赤米ご飯と合わせて、コウゾの飴を頂きました。

雨で憂うつなのは、大人だけのようで、子どもたちはへっちゃら。さらにガチャコンポンプで井戸水遊びを始めます。上からは雨、足もとのバケツにも水、ついにはカップも服も脱いで裸で遊び始める子どもも。「子どもは本当に水が好きなんだなあ」と皆が納得した1日でした。

◆ 7月

梅雨の6月、そして西日本豪雨から一転、強烈な日差しの7月のちこあそとなり、あまりにも暑いので今月も参加される方はおられるかなあと心配でしたが、多くの親子が参加してくださりました。外へ出ると工房で休んだり、お茶を飲んだり休憩を適宜入れて日差しを避けながらですが、田んぼや畑、森で大きくなった虫たちを追いかけました。ハマキノバチが巻いた葉っぱ、シオカラトンボ、イナゴ、ショウリョウバッタ、カブトムシ、ヌマガエルなど生き物に出会い、目を開き、感じました。

大雨の時もですが、暑ければ暑いほどガチャコンポンプの井戸水遊びも大人気です。トロ箱の簡易プールとガチャコンポンプを使って、大いに水遊びを楽しみ、保護者の方も、子どもたちが思いっきり水遊びを楽しむ姿に笑っておられました。

8月はお休みで、9月は第3水曜日の19日を予定しています。

WEBで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。

<http://blog.goo.ne.jp/eco-macha> をご覧ください。

【活動報告】

	実施日	タイトル	内容
6月	6月20日(水) 10:00-14:00	梅雨の雨を感じよう ちこあそ6月	ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者:メンバー4人、子ども2人、保護者2人、学生1名
7月	7月18日(水) 10:00-14:00	暑さに負けず自然と遊ぼう ちこあそ7月	ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者:メンバー4人、子ども9人、保護者6人、学生1名

【今後の活動予定】

	実施日	タイトル	内容
9月	9月19日(水) 10:00-14:00	ちこあそ9月	※毎月おおよそ第3水曜日に行います。8月はお休み ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチします。

新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう!

◆ 6月の様子



ミスジコウガイビルをルーペで観察中。雨だからかな？たくさん出てきていました。



雨でも、ガチャコンポンプで井戸水遊び。

みんなでバンダナおじさんが作ってくださったおかずやご飯も一緒に、いただきます！
「お家では野菜を食べないのに、ちこあそだとパクパクおいしそうに食べるんです」という声も聞かれます。



◆ 7月の様子



イチジクの葉っぱで仮面を作ったよ。



あんまり暑くて大変とのことで、バンダナおじさんのお手伝いで、草引きをしました。

さて、これは何でしょう？答えは、アライグマに食べられたであろうスイカの皮。子どもたちの水遊びのいい道具になりました。





(17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ代表アドレス: hashi-bck@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大塚泰介

【活動報告】

■ 5月26日(土) 参加者: 3名

博物館の生活実験工房の田んぼでワムシの採集・観察を行いました。前回に続きカシラワムシ (Cephalodella) の仲間など匍匐性のワムシ中心に観察しました。



採集の様子



Cephalodella megaloccephala



*Encentrum uncinatus*の咀嚼板

■ 6月3日(日) 参加者: 1名

博物館の生活実験工房の田んぼでワムシの採集・観察を行いました。



Parencentrum lutetiae



*Parencentrum lutetiae*の咀嚼板

■ 6月10日(日) 参加者: 7名

博物館の生活実験工房の田んぼでワムシやその他生き物の採集・観察を行いました。

前の週の活動まではカシラワムシの仲間など匍匐性の種類が多様にいたのですが今回の活動ではあまり採集することが出来ませんでした。代わりにハオリワムシやヒルガタワムシの仲間が多かったです。



採集の様子



ハオリワムシの咀嚼板(歯)

【活動予定】

- ・～8月 田んぼのワムシ調査
- ・9月 田上山の湿地調査
- ・秋 キノコの孢子観察
- ・時期未定 たんさいぼうの会の調査に同行させてもらう

開催日については未定です。

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



【活動報告】

■ 6月9日(土)「プランクトンを見よう！」参加者: 47名

はじめに、博士からプランクトンについてのお話をいただきました。そのあと、顕微鏡でプランクトンの観察を行い、スケッチしたお気に入りのプランクトンをおゆまるで模型作りしました。盛りだくさんの内容なので、ゆっくり観察できないのが残念でしたが、模型作りはみなさん集中して取り組まれました。みなさんには、プランクトンに興味を持っていただけるよい機会になったと思います。



■ 7月14日(土)「骨にふれてみよう！」参加者: 53名

はじめに、博士から「骨とは？」についてのお話をいただきました。緊張気味の博士にびわたんメンバーが上手くフォローする様子がとてもよかったです。また、参加者との掛け合いもあり意欲的に発言する子もたくさんいました。今回は、博士からの挑戦状という形でどこか骨かを当てるクイズもあり、場がとても盛り上がりました。ほねほねクラブの方々には、各テーブルに分かれていただき、参加者の方とたくさん関わっていただけたことがよかったです。最後には、紙ねんどで気に入って骨のレプリカ作りをして終わりました。



両日ともたくさんの参加者が来てくださりました。「骨にふれてみよう！」では、受付直後に満員になり、参加していただけないかたがいました。すみませんでした。

びわたん (おんちゃん)



【活動予定】

■ 9月8日(土)

「古代生物をうつし取ろう！」

■ 10月13日(土)

「ドキ土器! おしゃれもようを楽しもう！」

【活動報告】

■ 6月10日(土) 参加者: 6名

タヌキの骨格の組み立て作業を行いました。

このタヌキはディスカバリールームのリニューアルで使用されるものをほねほねくらぶで担当させていただいたもので、展示で使用されるものなので、骨同士を針金で固定していく形での制作方法をとっていたのですが、なかなか針金を通していく事が難しく皆で悪戦苦闘を繰り返すことになりました。

■ 6月23日(土) 参加者: 2名

バイカルアザラシの解剖を行いました。

今回はバイカルアザラシの頭部の解剖を進めたのですが、とにかく驚いたのがその目の部分の頭部に占める大きさでした、

さらにそのため目の間の部分の骨がものすごく薄くなっていて、ふだんよく扱っている動物達との違いに驚いてしまいました。



画: 西村 有巧

■ 7月7日(土) 参加者: 3名

今回は次週に開催予定のわくわく探検隊のための準備作業を行いました。

メンバーと準備作業を進めながら、次週のプログラムでどんな骨のお話を盛り込めるかと話し合いながら活動を行い、いつもと一味違う活動になりました。

人に何を伝えたいのか、どうすればどのように伝わるだろうかと考えながらプログラムを考えるという経験は普段の生活ではなかなか無い体験なので、緊張しつつも少しクリエイティブな気分が味わって楽しかったです。

■ 7月14日(日) 参加者名: 5名

わくわく探検隊のプログラム「骨に触ってみよう」をはしかけのびわたんさんと共催しました。

プログラムとしては、全身の骨の中から各自にお渡ししたレプリカと同じ骨を探し出してもらい、それをきっかけにして骨をじっくりと見てもらい、その後気に入った骨を紙粘土で作ってもらうというものでした。

まず驚いたのがレプリカをお渡ししたそばからすぐに、回答にたどりついて下さる方が大勢おられた事で、念のために用意しておいた二問目(難易度高め)もあっという間に解いてくださって、皆さんの観察眼を見くびっていたとメンバーで驚きあいました、その後の紙粘土での造形もよく観察しながら特徴をしっかりとらえたようなものばかりだったので、自分たちで考えたプログラムに真剣に取り組んでいただいている様子にうれしくなっていました。

【活動予定】

8月、9月の詳しい活動日は現在未定ですが、月に2回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。



【活動報告】

■ 6月20日(土) 場所: 琵琶湖博物館 実習室2 参加者: 10名

・ハーブチンキを使ったヘッドローション作り

緑のくすり箱では、いろいろなハーブチンキを作り、その利用法について、毎年研究・交流してきましたが、今回はヘッドローションを作りました。

メンバーで持ち寄ったハーブチンキは、

★ローズマリー ★葉わさび ★ラベンダー ★ビワの葉 でした。

特にローズマリーは、よく頭皮ケアに使われるハーブです。市販のシャンプーなどにもよく使われています。ローズマリーのチンキは、メンバーの家で育てているものでしたが、ローズマリーの種類によって、ハーブチンキの香りが違いました。また、葉わさびも、スーパーで購入したものと、自生しているものでチンキを作りましたが、わさび特有のツンとした香りが、自生しているもののほうが断然強かったのも、とても驚きました。

ヘッドローションは、持ち寄ったチンキの中から好きなものを選び、精製水で4倍ぐらいに薄め、少しハッカ油とグリセリンを入れて出来上がりです。マッサージの出来るメンバーが、セルフで出来るヘッドマッサージを教えてくださいました。



・ドクダミチンキ漬け

午前中が雨だったので、午後からドクダミの採取とチンキ漬けの作業を行いました。

ドクダミは生活実験工房の回りに生えているものを採取しました。

ドクダミは採取して、きれいに洗い、汚い部分や枯れている部分を取り除きます。

それから煮沸消毒した瓶にぎゅうぎゅうにドクダミを詰めて、ホワイトリカーを注ぎます。

(アルコール度数が35°以上のもの)最低3か月は漬けます。フィルターなどで濾して1年間保存できます。

緑のくすり箱で2年前に漬けた、ドクダミとアロエのチンキがあり、メンバーで分けて持って帰りました。

家に帰って化粧水を作りました。通常のお肌のケアにはもちろん、子供のあせもケアなどにも役にたっています。お風呂にそのまま入れて薬草風呂にしてもいいですね。

(ドクダミ化粧水のレシピ)

ドクダミチンキ … 10ml

精製水 … 40ml

グリセリン … 少々(保湿のため)

以上をよく混ぜ出来上がり。

お好みでチンキやグリセリンの量を変える。

水が入っているので腐りやすいため保管は冷蔵庫で。

1~2週間で使い切る。



【活動予定】

■ 8月22日(水) 10:00 ピワの葉を使ったこんにやく湿布 生活実験工房にて実施します。

★7月の活動はお休みです。



(21) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 25名】

グループ代表アドレス: hashi-mushikake@biwahaku.jp

グループ担当職員: 八尋克郎

【活動報告】

■ 5月27日(日) 10時~15時 夜間採集の装置の組み方実習と周辺の虫観察

場所: 琵琶湖博物館 生活実験工房周辺 参加者: 8名

夜間採集の道具を点検し実際に組み立て、ライトを点けてみました。生活実験工房の周辺ではチョウ・トンボ・ハチなどが観察できました。

■ 7月1日(日) 10時~15時 チョウの観察と採集 場所: 東近江市 参加者: 9名

季節のチョウやオバボタルなどが観察できました。

■ 7月21日(土) 10時~15時 チョウの観察と採集 場所: 東近江市 参加者: 8名

季節のカミキリムシやトンボなどが観察できました。

暑さが厳しかったためか全体的に昆虫が少なかったです。



【活動予定】

今後、1か月に1回程度の野外調査、2か月に1回程度の室内勉強会を予定しております。野外調査は、高島市を中心に分布調査を予定、夏季には夜間の灯火採集も予定しています。ご興味をお持ちの方は、グループ代表アドレスまでご連絡ください。(文責: 梶田)



(22) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20 名】

グループ代表アドレス: hashi-morihito@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林竜馬

【活動報告】

■ 5月19日(土) 10:00~14:30 朽木の森ユリノキ祭り参加と観察会 場所: 森林公園「くつきの森」

参加者: (会員) 2名 (博物館職員) 林

内容: 午前中は朽木ユリノキ祭りで琵琶湖博物館の植物観察会に参加した。ユリノキ広場~ほとらんど~ユリノキ広場のコースを林さんの案内で観察した。ユリノキは満開であったがハンカチノキをはじめ昨年と比べ咲き終わりの植物が多かった。午後は森人のみでからみ谷コースで森の観察を行った。あいにく雨が漸続的に降る肌寒い天候であったがシナノキ、ハナヒリノキ、ヤブウツギ、タニウツギ、ヤブデマリ、ギンリョウソウなどいろいろな植物の花を見ることができた。



■ 6月9日(土) 13:30~16:00 クズ、ツタの伐採 場所: 生活実験工房 参加者: (会員) 5名 (博物館職員) 林

内容: 太古の森の駐車場に面した場所のクズの伐採を行った。昨年秋に初めて伐採した場所でありほとんど剪定ばさみで切れる程度のものであったが数は多かった。本館横の太古の森ではツタが林床に広がり一部セコイアなどに上っているものは切った。虫にさされた人もいて今後は作業時期を見直す必要がある。

■ 6月23日(土) 11:00~15:00 外部見学観察会 場所: 栗東自然観察の森 参加者: (会員) 6名

内容: 本年2月に続き初夏の森を散策した。セリバオウレンは種を散布し、ザゼンソウは大きな葉を展開し根元には実も見られた。セツブンソウとキクザキイチゲはもう休眠中で姿が確認できなかった。この時期らしくササユリ、ハンゲショウ、ヤマアジサイ、ナツツバキ、アカメガシワなどが花を咲かせていた。午後は雨のため森人の会員で自然観察の森のボランティアのIさんに森の年間行事の説明を受け、ネーチャーセンター内の展示物を見学した。



■ 7月14日(土) 13:30~16:00 屋外展示の観察会 場所: E展示室 参加者: (会員) 7名 (博物館職員) 林

内容: おとなのディスカバリーを見学しこれからの森人活動にいかに関与するかを話し合った。特に顕微鏡やデジカメの写真再生できる大型のモニターを活用し森人の活動を来館者に紹介できそうである。今後具体案を考える。後半は樹冠トレイルの解説パネルの設置場所の検討も行った。

【活動予定】

- | | | |
|-----------------------|------------------|-------------|
| ◎7月28日(土) 13:30~16:00 | 内容: 企画展示「化石林」の見学 | 場所: 博物館玄関集合 |
| ◎8月11日(土) 11:30~15:00 | 内容: 伊吹山の植生観察会 | 場所: 伊吹山 |
| ◎8月25日(土) 13:30~16:00 | 内容: 検討中 | 場所: |

★森が好き、植物や昆虫など生き物が好きな人、専門知識は不要です。はしかけ“森人”に参加しませんか
★参加を希望される方は 森人(もりひと) hashi-morihito@biwahaku.jp に連絡ください。



(23) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 名】

グループ代表アドレス: hashi-ryozanpaku@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻達郎

【告知：次回の活動】

琵琶湖梁山泊の活動がいよいよ始まります。これまではメールリストで連絡を取り合っていましたが、8月20日(月)に琵琶湖梁山泊の第1回研鑽会を行います。

時間: 13:00~16:00

場所: 琵琶湖博物館 生活実験工房

内容: 各自の研究の紹介と議論

今後は研鑽会だけでなく、研究を進めるために必要な勉強会も開催します。

【活動予定】

10月 第1回勉強会



(24) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ代表アドレス: hashi-salondekoryu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 戸田 孝

【活動報告】

■ 6月1日 結成承認

■ 7月22日(日) 初顔合わせ・今後の方針について議論

場所: 琵琶湖博物館 実習室1 参加者: 7名 (はしかけ4名 学芸員2名 アドバイザー1名)

【活動予定】

■ 8月26日(日) 午後 於 琵琶湖博物館

湖水の鉛直循環を理解するための実験を試みる。

9月以降は未定ですが、主として土日に月1回程度の活動を想定しています。

3. 生活実験工房からのお知らせ

生活実験工房の田んぼは、早稲品種の「みずかがみ」がぼちぼち出穂しています。今年は猛暑ですが、昔から「干ばつに不作なし」と言っ、水不足にならない程度に日照りがひどいくらいの方が米の生育には良いものです。次の行事は9月の稲刈りですので、皆様のご参加をお待ちしております。

担当職員: 下松 孝秀

【活動予定】

開催時間 10:00~12:00 場所: 全日程とも生活実験工房

9月9日(日) 稲刈り、はさ掛け (早稲品種: みずかがみ)

10月7日(日) 稲刈り、はさ掛け (晩稲品種: 滋賀羽二重もち)

※一般参加者の受付は、9:30 からです。

各自、長靴、着替え等をご用意ください。

4. その他の事項

(1) メールアドレスとホームページアドレスの変更について

びわ博の情報システム変更にもなつて、メールアドレスとホームページのURLが変更になりました。新しいメールアドレスは「***@biwahaku.jp」、ホームページは「http://www.biwahaku.jp/」です。なにか不備がありましたら、事務局までお問い合わせください。

(2) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者を確認をお願いします。メールの場合は、グループ代表アドレス（各グループの報告欄に掲載）にご連絡ください。

(3) 名札（会員証）の写真について

名札（会員証）の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送つて下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限ります。

(4) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(5) はしかけ活動中に事故が起こつたら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先（社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923）へ、速やかに連絡してください（各人で連絡）。

なお、手続きには、グループ担当者（学芸員）の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局（博物館事務学芸室）にも置いています。